



仲よく やりぬく たくましい子

令和3年(2021年) 11月18日発行 文責 校長 土永 晶

『藤樹デー』開催11月10日

*中江藤樹先生の教えをみんなで学び考える日

平成23年から始まった『藤樹デー』は、今年で11回目となります。
今までは、藤樹先生の教えを盛り込んだ劇団による演劇を鑑賞したり、学校周辺の各施設でお話を聞いたり、ウォークラリーを行ったり、芋炊きをしたりなど、土曜日に開催していました。

コロナ禍の関係で今年も昨年同様、平日に校内で行うことになりました。縮小されたとはいえ、6年生がたてわり活動を計画し、5年生がかかるた大会を進めるなど、子どもたちが準備し自主的に活動するなどの場面があり、とても感動しました。3年生の「校長先生がほうそうで話してくれた【孝行】もわたしは好きになりました。大切にしようと思いました。」という感想文を読んで、しっかり学んでいるんだと感心しました。以下、活動内容と感想の一部を紹介します。

<日程>

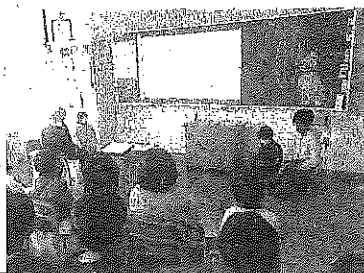
- 9:00~ 企画委員会による進行
校長の話
- 9:15~ たてわり活動 6年生が進行
(藤樹先生の学習プレゼン
たてわり遊び) 8グループで
- 10:00~ 藤樹学習(学年で講話を聞く)
- 10:30~ 藤樹かるた大会
(学年で開催 5年生が進行)
- 11:30~ 振り返り

「たてわり活動」

6年生は、藤樹先生の教えを今の自分たちの生活の中での出来事にたとえ、タブレットで自作の動画や画像をつくり、下学年に説明します。見事なものです。中学校の文化祭で生徒会役員が行う「人権学習」や「いじめ撲滅運動」をみているような気がしました。縦割りで全校を8チームに分け、1チームに6年生4、5人が担当します。それぞれが藤樹先生の【五事を正す】や【致良知】などの教えを具体的に説明するため、自作のスキットなどで演じた動画を事前に撮影し、それを見せながらクイズや説明で丁寧に下級生に伝えます。友人とのトラブルや学校生活での注意点などを例にし、「この場面はどこがいけないと思いますか?」「どうしたらいいと思いますか?」「そうならないようにするには、どんなことを心がけないといけないのでしょうか?」などと問いかけていました。上学年が下学年を大切に、下学年は上学年に感謝の気持ちをもつ。まさに藤樹先生の教えを実践していました。この取組を途絶えさせてはいけなさと感心しました。

<感想>

- ・6年生に【五事を正す】について教えてもらいました。勉強になったのは「思」です。思いやりのある心がわたしの一番好きなところでした。
- ・心のくもっている人、心のくもっていない人のどうがをみて、こんなにちがうんだと思いました。
- ・【致良知】という意味を知り、「ポケットに手を入れない」「ろうかを走らない」ことを6年生が「ポケットに良い心を入れよう」「マナーをやぶったりすることで良い心をくもらせてはいけない」などと教えてくれました。
- ・6年生になったら僕たちもいろんなことを考えて、自分より下の学年の人を楽しませたいです。
- ・たてわりあそびがとても楽しかったです。絵しりとりをひさしぶりにやったので楽しかったです。
- ・たてわりあそびで、しんぶんじゃんけんをしました。まけてふてばこのはんぶんぐらいのおおきさになったけどおちませんでした。
- ・1年生~5年生までが楽しめそうなことやわかりやすいことを意識しながらしました。【致良知】には欲望と良知があるので、学校生活の中のことを例にあげて考えました。
- ・何について学んだら学校や将来の役に立つのかを意識しました。一番の土台になるのが【五事を正す】だと思い、決めました。どのように言えば1年生に伝わるのか。5年生などには簡単すぎないようにするのが難しかったです。



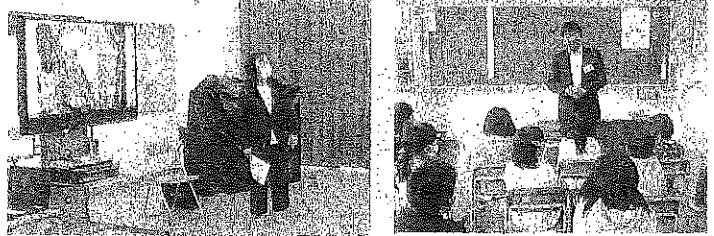
「藤樹学習 講話」

講師をお招きして、藤樹先生にまつわるお話をさせていただきました。
子どもたちは熱心にお話を聞くことができました。

<講師のみなさんと内容> 1,2年生: 淵田京子さん「藤樹先生の紙芝居」
3年生: 武田基裕さん「藤樹先生の教えについて」 4年生: 志村隆仁さん「安曇川の扇骨について」
5年生: 小川秀治さん「藤樹神社について」 6年生: 淵田豊朗さん「藤樹書院について」

<感想>

- ・とうじゅせんせいはやさしいひと。いいひと。
- ・とうじゅ学しゅうの紙しばいをみて、とうじゅ先生が自分から田んぼにはまった車を助けたのがすごいと思いました。
- ・かみしばいをみて、わたしもこまっている人がいたらたすけようと思いました。
- ・せんこつの話では、日本の約90%ほどが高島市の安曇川と新旭で作っているなんてびっくりしました。いろんな使い方に合わせて作っているってすごいと思いました。
- ・藤樹神社が造られてちょうど100年目だそうです。とてもびっくりしました。今でいう5億円の資金が必要だったそうです。
- ・藤樹先生のことをもっと有名にできるのではないかと思います。藤樹先生のことをもっと深く勉強して、藤樹書院、藤樹神社等、藤樹先生に関係のあるところに足を運んでもらって、藤樹先生のことを知らなかった人も他の人に説明できるぐらい、有名にしていきたいと感じました。



「藤樹かるた」

各学年に分かれて、5年生の進行のもと、伝統ある「藤樹かるた」を行いました。
感染症対策をとりながら、グループではなく個々でカードを取りました。



<感想>

- ・いちばん心にとこったことは、かるた大会です。れんしゅうではまけたけど、本ばんでよかったです。とても楽しかった。
- ・とうじゅかるたは、いちまいしかとれなかったけど、勉強やあそびとして楽しめた。来年は私たちは5年生になって札をよむようになるので、今日のことを思い出して今の3年生の見本になりたいです。
- ・今日、楽しかったのは藤樹かるたの進行をしたことです。説明のところで一番話すのがながいところだったので、前日はすごく練習しました。本番もうまくいってよかったです。
- ・改めてかるたを見ると、先生の生き方や教えがたくさん書かれてました。3年生は目を見て話をしっかり聞いてくれました。先生の生き方をしっかり勉強しているんだなと思いました。
- ・学校に来たときはドキドキしてたけど、やってみるとドキドキがなくなりました。2年生も5年生の言うことをきいてくれて、僕たちもやるきができました。

<児童会の取組> 児童会テーマ ～心の芽 思いやる気持ちで花がさく～

11月のミニ集会で、校長と生徒指導担当から「言葉の使い方」が気になることについてお話をしました。同時に、児童会(企画委員会)でも『優しい言葉使いプロジェクト』が発足し、校舎内に19枚の「思いやる気持ちがかもったことば」のカードを掲示してくれました。このカードにはそれぞれキーワードが示されていて、すべてのキーワードがそろえば、ある言葉になります。全校児童がウォーラリーのように校舎内を探し、キーワードを見つけます。大切なのは、1人でも多くの人がやさしい言葉をかけていくこと。相手の気持ちを考えた言葉を発すること。カードを掲示するだけではメッセージは届きません。企画委員会が考えたこの全校児童を巻き込んだ活動をきっかけに、『人を思いやる気持ち』が育ち『あたたかい心の花』が咲くように期待しています。【藤樹デー】の活動とともに、5,6年生の活躍にたいへん感謝しています。全員で、相手を思いやる気持ちであふれる学校にしていきたいです。